



八 月 号  
發行所  
財団法人全日本仏教会  
東京都中央区築地  
三ノ木(本願寺内)  
電話541031三  
發行人 栗本俊道  
編集者 吉井浄仙  
印刷所 榮昌堂

### 社会的な責任を 自覚しよう

街を歩くと、真夏の照りつける太陽をさけて、木蔭に涼を求める人々の姿をみかける。たゞ食を求めて、アクセクと動き廻つていた戦後の混乱期には見られなかつたゆとりが感じられる風情である。こんなところにも十年余の時の距りが想われる。

「戦後」は終つた、ということが言われる。なるほど現在では、戦後の混乱と、明日知れない不安とにおのゝいていた時期は一応終つたということができよう。まがりなりにも「独立」したし、物質的な生活の面での豊かさは、とても十年前には想像さへできなかつたほどになつてゐる。

しかし、このような物質面での、あるいは表面上での繁栄は、必ずしも本格的な安定を意味するものとは速断しがたい。それどころか「道義確立」の必要が叫ばれ、新しいモラルについての論議は絶えない、精神的な面での頹落は残念ながらその止まるところを知らないありさまである。また、敗戦の体験は忘却の彼方へ追いやられ、深刻な反省の契機としての意味を失いかけてゐること

はわれわれに何か危惧を抱かせらる。

今こそ仏教が真の存在理由を明らかにすべき時代であるといわれる。なるほど菩薩道を説く仏教は、単に個人的な悟りや安心を求めるに止まらず、現実当面の課題に対して当然に責任を負うものというべきであらう。事実、政治や社会の諸問題に対する仏教者の無関心を反省し、これに積極的に対処しようとする動きが最近活発化してきていることは注目に値することである。

全仏の政治、経済委員会でもこのような動勢に鑑みて、仏教者の政治活動の問題をとりあげているが、その成果と今後の実践に大いに期待がかけられるところである。

われわれは、このような動きが単に限定された人々だけのことでなく、すべての仏教者がこの際自己の信仰と仏教者の社会的責任について深く省察され、正しい仏者の道を行ぜられることを祈つて止まない。

### 盛会が予想される

## 全日本仏教徒会議

近 京 都 に 準 備 委 成 立

去る七月十八日午後二時より京都知恩院華頂会館に於て、今秋行われる才七回仏教徒会議の才一回打合せが開かれた。

関西側より心山府仏教会長、井上師恭師、千々和執事長、中島、佐藤両部長、田丸総長、中戸総務、桑原師、伊原文書部次長等十名本部より栗本組編局長外三部長出席して開会された。

名称は「才七回仏教徒会議京都知恩院大会」とし、会期は十月廿三日(金)廿四日(土)廿五日(日)の三日間にわたり会場は知恩院とする。

高関西側及本部の仕事の分担等についても協議が行われ次のように決定した。

#### ◆本部側

1. 要項。種々のプリント、名簿等の作製
2. 来賓招待、参加者の勧募
3. ポスターその他について

#### ◆関西側

1. 会場設備施設等
2. 準備委員会を設ける
3. 報道関係の一切
4. その他会議執行に必要な事項

準備委員会は泰隆真師が中心になつて設け、近日中に委員の委嘱が本部より行われる事になつてゐる。

特に関西側の希望により講演と音楽の夕べが持たれ、目下講師を交渉中であり、音楽は京都の仏教系各大学の奉仕によつて行われる。

尚最終日廿五日の午後は京都著名寺院の巡拝が希望者によつて行われる。

来賓としてタイ国大使及び文部大臣が参加せらるよう各当局と接渉中である。

特に本年は盛会が予想されるのは十月廿一日に真言宗智山派智積院の新能化の晋山式が行われ、廿二日は時代祭り廿四日より廿九日まで丸物百貨店で京仏具展覧会が京都府、京都市、京都商工会議所、京仏具商連盟の共催本会の協議によつて行われるので今秋の京都は仏教色一色に塗りつぶされる事と思われる。

参加者の為めには宿泊や観光等に万全の準備が地元側の手によつて進められる事になり、夕方五時この打合会は和気アライたる中に閉じた。

### 役員選出のための

## 新評議員会

### 八月下旬開催

全日仏は、去る昭和三十三年八月財団法人として認可されてから

二年を経過したが、来る八月二十三日を以て役員任期を迎える。このため加盟各団体に対して新評議員の選出と承諾書提出について依頼したが、来る八月十日までに、それぞれ新評議員が届出られることになつてゐる。これに従つて早速評議員会が八月下旬に開かれ、会長、副会長、理事、監事等の役員がそれぞれ推戴、選任されることになつてゐる。

### 山形県仏結成へ

## 準備会開かる

山形県では、去る四月の祝尊二千五百年祝典山形地方大会の開催にあつて、県下各界の協力をえて非常な成功をおさめたが、それを契機に県下各地区仏教会の連絡交渉が進み、このたび山形市仏教会(会長平沢東貫師)が中心となつて県仏教会結成の準備が進められてゐる。

この山形県仏の結成は、やがて東北各県仏の活潑な諸運動への才一步となるものと大きな注目を集めており、全日仏でも、全一仏教運動への参加による活動を期待して連絡にあつてゐる。

# 政治活動の充実を 政治同盟假案を討議

## — 政治・経済委員会 —

全日仏の政治・経済委員会では去る七月十日午後二時より、築地本願寺特別室で定例委員会を開催した。

この日、委員有志によつて準備された「日本仏教政治同盟」(仮案)が提出されて討議に付された。

この政治・経済委員会は昨秋成立以来、毎月定例委員会を開催して政治・経済問題に対する仏教者の基本的態度、ならびに現在の政治的、経済的、社会的諸状況の分析、当面せる諸問題についての仏教者のあり方などについて研究と意見交換を行つてきたが、最近国内的ならびに国際的諸情勢の推移に鑑みて、わが仏教界内にも何らかの政治団体成立の必要を痛感する声が起つており、その結成への動向も見受けられている。

全日仏政治・経済委員会として、当然このような動向を黙視すべきではなく、また出来れば、広く全国的な仏教者の大結集が齊らされるのは望ましいものと考えられていたので、この委員会に「日本仏教政治同盟」(仮案)が提出されたことは歓迎され、活潑な討議がかわされた。

その結果、この仮案について広く全委員の意見を聴取して慎重に取り扱い、更に委員会の検討に付

した上で、正式に成文化し、全日仏当局に提出して、その結成促進について努力することになった。

おな、これは来るべき秋の全日仏本教徒会議で広く討議されるものと予想される。

当日の出席委員は次の各氏  
松本徳明、増永靈鳳、大野信三、米山久、狩野獲麟、中山理々、吉田敬直、摩尼清之、太田淳昭、桜井榮章、栗本俊道、阿部竜伝、常光浩然、浜田悠、堤敏郎、齊藤精矩

(順不同、略敬称)

## 法華経の写経を

### 霊鷲山へ

東京都台東区浅草寿町に在住の磯村政治郎氏と云う熱心な仏教徒が法華経三部十卷(才十一回目)を写経したので是非印度の霊鷲山

か他の聖蹟へ納めたいと発願し、在東京印度大使館を通じて申入れて来たので全日仏国際局では出来れば霊鷲山へ同氏の希望通り納めたいと云つてゐるが、来年印度で開催される予定の才六回世界仏教徒会議へ派遣される日本代表にでも托してもらふ意向である。

なお、磯村氏は過去二十余年に亘つて法華経の写経に従事し、油商の商売が終つてから始めていると云つてゐるが商売繁昌の祈念の爲でなくただ心力増進、学徳倍増のみを祈念してゐると云う。

氏は積尊のみ教えの宣布を終生の念願としてゐる。

## 中国仏教誌「覚生」へ

### 日本高僧の書画贈呈

自由中国台湾において最も有力な仏教機関紙である月刊「覚生」が今回長年の間続けてきた月刊を週間にきりかえることになり、同出版記念に世界各国仏教界著名人による書画を掲載し以て仏教宣布に役立てたいと編集主任の材錦東氏(元中国仏教会台湾省分會理事長)より全日仏へ日本高僧の執筆

の依頼を依頼して来た。全日仏では早速各宗大徳に執筆の依頼方の要請を行い数点集まつたので過日航空便で送付した。

書画御執筆の大徳諸師は左の通りである。

- 大原智乘師(高野山管長)、中山玄秀師(天台宗座主)、椎尾弁匠師(増上寺法主)、高階龍仙師(曹洞宗管長)、山田日真師(日蓮宗管長)、大谷光照師(西本願寺法主)

## 東南アへ二僧が弔意の旅

来る八月廿四日から九月三日に亘る十日間、東南アジアのバンコック、シンガポール、クアラ・ Lumpur、香港等へ日本人物故者の慰霊を主なる目的として大野日勇師(千葉県市川市日蓮宗妙行寺住職)佐久間智瑞師(大野師と随行)の二僧侶が出發することになり、過般出發に際して挨拶に来局した。

全日仏国際局ではそれら各地の日本人会、仏教会、高僧、商社などに両師に対する便宜供与方の依頼状を発信した。

## 越南の青年

### 日本仏教を研究

ヴェトナムの青年仏教徒で四年前に來日し日本の仏教を研究していたチャン・ドイ・ニユウ氏が過日全日仏を訪れ東京都内にある寺院に通つて日本仏教を学びたいから斡旋してほしいと依頼して来た。全日仏国際局では早速都内有力寺院に協力を依頼している。なお同氏は日本語の読み書きが可能である。

## 修訂中華大蔵経を執筆

自由中国台湾桃園大溪に今般設置された修訂中華大蔵経会では現在韓国及日本に在るタイ及セイロン大蔵経の両国語訳、及経籍、梵經目錄の両国語訳などをあつめて修訂中華大蔵経を執筆完成すると云うことで過般日本側の部門を受け持つ様に依頼された蔣君輝氏

(ウイラーテキスタイルKK東京支店長)が全日仏を訪れた。全日仏では早速関係各筋へ協力をよびかける。

## インドネシアの友へ書籍

全日仏国際局ではインドネシア国ジャカルタ市在住の熱心な仏教徒に対し多量の仏教パンフレットや書籍をモハ・トハ・ニシムラ氏を通じて送付した。

## 現代僧侶の役割

### につき放送

全日仏国際局長石川存静師は去る七月二〇日同事務局において、日本文化放送を通じて「現代において果す僧侶の役割について」と題して約一時間半に亘り対談の形式で録音放送をした。

## あとかぎ

◆山本洋一博士が「一切皆空」なる新著を携えて來局され、現代科学を指導すべき仏教の真意を強調していかれた。著書の副題にいわく「科学と宗教は融合する」先生の熱意には何時もながら敬服する。◆講習会は暑さの真盛りが開かれるが、熱心な参加者が続々と申込みれてゐる。内容的な成果は大いに期待される。◆仏教徒會議も京都側では近く準備委員会を組織して具体的に活動を開始する。単に現象的な「盛会」でなく、充実したものになるよう各方面の協力が望まれる。◆本通信のため各宗派団体の動勢をお知らせいたゞくようお願いいたします。